理事会議事録　　　　　　　開催日時：2016年8月2日（火）　20：00～20：40

　　　　　　　　　　　　　　開催場所：管理棟第一会議室

**1）会長所信表明及び新執行部人事の発表**

5/28の讃樹會定期総会で第三代会長に就任した濱本龍七郎会長から就任挨拶があった。「設立から30年を経て、新しい展開を実現する時期に入ったと感じており、今回、短期間であるが引き受けた。執行部の構成は、前会長の髙橋先生には顧問になっていただき、副会長を今までの3名から5名に増やし充実させた。副会長には、平川栄一郎先生、大森浩二先生、安岐康晴先生、中村丈洋先生、星川洋一先生に就任いただいた。事業局長出口一志先生、学術局長筒井邦彦先生、広報局長兼事務局長安田真之先生、教育研修支援局長松原修司先生、同副局長は前年度通り土橋浩章先生、岡野圭一先生と、徳島県立中央病院の市原新太郎先生に新しくお願いして3名となった。執行部の数をかなり増やし、これから2年間、今までにない充実した同窓会をもう一度やり直したいと思っている。」とし、理事の協力を仰いだ。

**2）理事長選出**

副会長の平川栄一郎先生が代理議長となり、理事長選出の議事が進行した。事前に行った理事からの推薦が、現理事長の大西宏明先生が34票を獲得していて大多数であることに基づき、大西先生に引き続き理事長に就任いただくことが拍手で承認された。

大西先生から「香川大学医学部同窓会も30年経ち、本当に大きくなってきていると思う。執行部も刷新し、副会長が増えられて、いろいろな方面で更に発展していくことが期待される。理事も年々人数が増えてきており、各学年の意見を吸い上げて、いろいろなことを執行部にお願いしたり決めていくことのできる理事会にしたい。」との挨拶があった。

**3）常任委員会委員長選出**

監査委員会、選挙管理委員会、懲罰委員会、定款委員会の4つの委員会について、事前の希望アンケートに基づき事務局の方で行った配置案が拍手で承認された。各委員長の選出方法として、学年の上の先生に就任いただくのが最も議事を進めやすいと考えられるとの提案があり、拍手で承認された。その結果、監査委員長は形見智彦先生、懲罰委員長は河井信行先生が該当し理事会に参加されているのでその場で承諾いただき、理事会欠席の選挙管理委員長候補の横井徹先生と定款委員長候補の西田智子先生には後日事務局から連絡し承諾いただくこととなった。

**4）研究助成金及び研究奨励金の審査・決定**

筒井学術局長から応募状況及び選考経緯の説明があり、今回14名の学外評価委員の先生により評価をいただき、執行部では、各部門で評価アベレージの第一位を選考の対象としたいとの提案があり、評価一覧が資料として配布された。議長が理事に質問、意見を求め、理事から選考対象者の同窓会費の納入状況について質問があり、筒井学術局長から両名とも条件を満たしていると返答があった。評価一覧については、理事会終了後、回収されるため、本理事会においてしっかりと目を通すよう議長から促された。以上を経て、研究助成金は森下朝洋先生、研究奨励金は藤原新太郎先生の受賞が拍手で承認された。

**5）研究助成金及び研究奨励金外部評価委員推薦のお願い**

筒井学術局長から、現在、臨床系6名、基礎系8名で計14名の外部評価委員がおられ、この中で基礎系で長年評価委員を務めていただいた先生が1人、今回、辞退の希望があることが報告された。執行部から、臨床系と基礎系をそれぞれ8名ずつお願いするか、基礎・臨床を問わずに16名にお願いするかを理事会で決めてほしいという要望が出され、8名ずつの同数でお願いすることに決まった。

引き続き、新しい評価委員を理事及び執行部からの推薦で募るため、医学部退官教授の名誉会員の先生方の一覧表が資料として提示され、名誉会員の先生方も含め、外部評価委員を推薦用紙で9月30日までに返信いただくよう筒井学術局長からお願いがあった。流れとしては、推薦された先生へ同窓会としてお願いしていくこととなる。

大西議長から、各学年に声をかけてできるだけ多くの方の意見をいただきたいことと、以前に評価委員を断られたことがある先生でも、再度依頼させていただくことも可能であること、後日、事務局から推薦用紙フォームが配布されるので推薦いただくよう重ねてお願いがあった。

**6）学会助成金の審査・決定**

筒井学術局長から、学会助成金制度要項の説明後、今回、一件の申請があったことが報告された。理事から、申請時の参加予定人数と、実際の参加人数についての照合をしてはどうかという質問が上がった。要項の助成条件7-2「終了後6か月以内に収支決算書等、会の開催を証明するものを提出する」に基づき、実際の参加人数が申請時と合致しているかどうか確認することとなった。

学会開催が増えているが運営もむつかしい面があるので、学会助成制度があることを会員や教室に広くアナウンスして少しでも利用してほしいと大西議長及び筒井学術局長から話があった。ただ、金額が小規模であるので執行部として予算枠の中で何らかの検討をしてほしいということも付け加えられた。